

## LESSON NOTES

# Advanced Audio Blog S4 #13 Top 10 Japanese Songs: Akatonbo/ Red Dragonfly

---

## CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 4 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 7 Grammar

# 13

# KANJI

1. 赤とんぼ
2. 平安時代の随筆『枕草子』にも「秋は夕暮れが素晴らしい」と評されているように、日本人が「秋」から連想するのは夕方です。
3. 夏から冬へと移り変わる間にある秋と、昼から夜へと移行する時間帯の夕暮れ時には共通する「そこはかかない淋しさ」があるように感じます。
4. さて、夕焼け空に赤とんぼが飛び交っている...子どもの頃、そんな風景を見たことがある人は多いのではないのでしょうか。『赤とんぼ』の作詞者・三木露風(みきろふう)は秋、竿の先にとまっていた赤とんぼから、故郷を、そして幼少期の経験や目にした光景などを思い出して詩にしました。
5. 露風がわずか5歳のとき、両親が離婚。祖父に引き取られ、身の周りの世話をしてくれたり遊んでくれたりしたのは、歌詞に出てくる「ねえや」でした。これは「住み込みのベビーシッター」で、世話をされる子どもより少し年上の少女を指します。実の姉でなくとも、淋しい少年時代を過ごした露風にとっては実の姉以上に、慕わしい存在だったのではないのでしょうか。
6. 1921年(大正10年)に発表されたこの詩、6年後に曲をつけたのが山田耕筰(やまだこうさく)です。
7. 美しくも物悲しいメロディーはしみじみとした郷愁をかきたて、聞く人みんなを懐かしい気持ちにさせます。古今東西、子どもの頃に見た風景は、大人になってからもずっとその人の心の中に生き続けるものですね。
8. 発表されて以来、多くの日本人に口ずさまれてきた『赤とんぼ』は、2007年(平成19年)に「日本の歌百選」の一曲になりました。

# KANA

CONT'D OVER

1. あかとんぼ
2. へいあんじだいの すいひつ『まぐらのそうし』にも「あきはゆうぐれがすばらしい」とひょうされているように、にほんじんが「あき」かられんそうするのはゆうがたです。
3. なつからふゆへとうつりかわるあいだにあるあきと、ひるからよるへといこうするじかんたいのゆうぐれどきにはきょうつうする「そこはかとないさみしさ」があるようにかんじます。
4. さて、ゆうやけぞらにあかとんぼがとびかっている...こどものころ、そんなふうけいをみたことがあるひとはおおいのではないのでしょうか。『あかとんぼ』のさくししゃ・みきろふうはあき、さおのさきにとまっていたあかとんぼから、ふるさとを、そしてようしょうきのけいけんやめにしたこうけいなどをおもいだしてしにしました。
5. ろふうがわずか5さいのとき、りょうしんがりこん。そふにひきとられ、みのまわりのせわをしてくれたりあそんでくれたりしたのは、かしにでてくる「ねえや」でした。これは「すみこみのベビーシッター」で、せわをされるこどもよりすこしとしょうえのしょうじょをさします。じつのあねでなくとも、さみしいしょうねんじだいをすごしたろふうにとってはじつのあねいじょうに、したわしいそんざいだったのではないのでしょうか。
6. せんきゅうひやくにじゅういちねん（たいしょうじゅうねん）にはっぴょうされたこのし、ろくねんごにきよくをつけたのがやまだこうさくです。
7. うつくしくもものがなしいメロディーはしみじみとしたきょうしゅうをかきたて、きくひとみんなをなつかしいきもちにさせます。ここんとうざい、こどものころにみたふうけいは、おとなになってからもずっとそのひとのこころのなかにいきつづけるものです。

CONT'D OVER

8. はっぴょうされていらい、おおくのほんじんにくちずさまれてきた『あかとんぼ』は、にせんななねん（へいせいじゅうきゅうねん）に「にっぽんのうたひやくせん」のいきよくになりました。

## ROMANIZATION

1. Akatonbo
2. Heianjidai no zuihitsu "makuranosōshi" ni mo "Aki wa yūgure ga subarashii" to hyōsarete iru yō ni, Nihonjin ga "aki" kara rensō suru no wa yūgata desu.
3. Natsu kara fuyu e to utsuri kawaru aida ni aru aki to, hiru kara yoru e to ikō suru jikantai no yūgure doki ni wa kyōtsū suru "sokohakatonai samishisa" ga aru yō ni kanjimasu.
4. Sate, yūyakezora ni akatonbo ga tobikatte iru... Kodomo no koro, sonna fūkei o mita koto ga aru hito wa ōi no de wa nai deshō ka. "Akatonbo" no sakushisha, Miki Rofū wa aki, sao no saki ni tomatte ita akatonbo kara, furusato o, soshite yōshōki no keiken ya me ni shita kōkei nado o omoidashite shi ni shimashita.
5. Rofū ga wazuka go-sai no toki, ryōshin ga rikon. Sofu ni hikitorare, mi no mawari no sewa o shite kuretari asonde kuretari shita no wa, kashi ni dete kuru "neeya" deshita. Kore wa "sumikomi no bebīshittā" de, sewa o sareru kodomo yori sukoshi toshiue no shōjo o sashimasu. Jitsu no ane de nakutomo, samishii shōnen jidai o sugoshita Rofū ni totte wa jitsu no ane ijō ni, shitawashii sonzai datta no de wa nai deshō ka.
6. Sen kyū-hyaku ni-jū ichi-nen (Taishō 10-nen) ni happyō sareta kono shi, roku-nen go ni kyoku o tsuketa no ga Yamada Kōsaku desu.
7. Utsukushikumo monoganashii merodī wa shimijimi to shita kyōshū o kakitate, kiku hito min'na o natsukashii kimochi ni sasemasu. Kokontōzai, kodomo no koro ni mita fūkei wa, otona ni natte kara mo zutto sono hito no kokoro no naka ni ikitsuzukeru mono desu ne.
8. Happyō sarete irai, ōku no Nihonjin ni kuchizusamarete kita "akatonbo" wa, ni-sen nana-nen (Heisei jū kyū-nen) ni "Nippon no uta hyakusen" no ikkyoku ni narimashita.

## ENGLISH

CONT'D OVER

1. Red Dragonfly
2. Just as is stated in the "The Pillow Book," a collection of essays from the Heian period, which comments "The evening light in autumn is magnificent," what Japanese people associate with "autumn" is evening time.
3. It seems that the same vague sense of loneliness is apparent in autumn, which comes between the change from summer to winter, as it is at dusk, which comes between the change from day to night.
4. There must be many people who as children remember seeing red dragonflies flying about at sunset. The songwriter of "Red Dragonfly," Rofū Miki, created the song after seeing a red dragonfly alighting on the end of a pole and being reminded of his hometown, and thus the experiences and sights of his early childhood.
5. When Rofū was just five years old, his parents divorced. Taken in by his grandfather, the one who took care of him, played with him, and such was the "young lady" who appears in the lyrics of the song. This refers to a live-in babysitter, who was a girl slightly older than the child whom she was looking after. Even though she wasn't his real older sister, for Rofū, who spent a lonely boyhood, surely she was even more beloved than a real older sister would have been.
6. This poem, which was published in 1921 (the tenth year of Taisho), was put to music six years later by Kōsaku Yamada. The melody, both beautiful and sad, stirs up strong feelings of homesickness and makes all who hear it feel sweetly nostalgic.
7. In all times and places, the scenes one sees as a child live on in one's heart as an adult, don't they?
8. After its release, "Red Dragonfly," which had been hummed by so many Japanese people, was selected in 2007 (the nineteenth year of Heisei) as one of the "One Hundred Japanese Songs."

## VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
-------	------	--------	---------

郷愁	きょうしゅう	kyōshū	nostalgia
しみじみとした	しみじみとした	shimijimitoshita	keenly, deeply, heartily
随筆	ずいひつ	zuihitsu	essay
作詞者	さくししゃ	sakushisha	lyric writer
古今東西	ここんとうざい	kokontōzai	all times and places, all ages and countries
慕わしい	したわしい	shitawashii	beloved
竿	さお	sao	rod
そこはかかない	そこはかかない	sokohakatonai	vague, faint, slight

## SAMPLE SENTENCES

<p>郷愁に満ちた音楽を聞いて、故郷を思い出した。</p> <p><i>Kyōshū ni michita ongaku o kiite, kokyō o omoidashita.</i></p> <p>The nostalgic music reminded me of my hometown.</p>	<p>一人暮らしを始めて、家族の大事さをしみじみと感じた。</p> <p><i>Hitorigurashi o hajimete kazoku no daijisa o shimijimi to kanjita.</i></p> <p>After I started living alone, the importance of family sank in for me.</p>
<p>国語の時間に、随筆を書く宿題が出た。</p> <p><i>Kokugo no jikan ni zuihitsu o kaku shukuda ga deta.</i></p> <p>We got an assignment to write an essay in Japanese language class.</p>	<p>この歌は、作詞者の死後100年経った。</p> <p><i>Kono uta wa sakushisha no shigo hyaku-nen ga tatta.</i></p> <p>It's been 100 years since the writer of the lyrics of this song passed away.</p>
<p>古今東西どこを探しても見つからないだろうお宝を持っている。</p> <p><i>Kokontōzai doko o sagashite mo mitsukaranai darō o-takara o motte iru.</i></p> <p>I have a treasure which can't be found in any place.</p>	<p>慕わしい友人がアメリカにいる。</p> <p><i>Shitawashii yūjin ga amerika ni iru.</i></p> <p>I have a beloved friend in the US.</p>

竿が折れた。  
*Sao ga oreta.*  
The rod broke.

そこはかとな不安がある。  
*Sokohakatonai fuan ga aru.*  
I have a slight feeling of uneasiness.

## GRAMMAR

**Natsuko:** オーディオブログ第4シーズン第13課 「赤とんぼ」

**Yuichi:** こんにちは ゆういちです

**Natsuko:** なつこです。今回取り上げる歌は？

**Yuichi:** 「赤とんぼ」です。

**Natsuko:** 今回のブログは「秋」を連想させる曲「赤とんぼ」でした。

**Yuichi:** なんとなく、淋しい感じのする歌ですよ。

**Natsuko:** 「赤とんぼ」というのは「赤い種類のトンボ-dragonfly」のことですけど、涼しいところに住んでいるらしいんですよ。だから、暑い夏の間は山の方で過ごして、秋になると、今度は山はちょっと寒すぎるから、暖かい平地の方に降りてくる。

**Yuichi:** 今なつこさん、「赤い種類のトンボ」っていいんですけど、赤とんぼは秋になると赤くなるんじゃないですか？

**Natsuko:** いや、それもあるみたいなんですけど、夏の間はそんなには赤くないんですが、秋頃になるとすごく赤味が強くなって来るらしいです。

**Yuichi:** へー。そういえば、赤とんぼって最近見ますか？

**Natsuko:** 見ませんね～。そう言えば…。私が子供の頃は東京でも見かけたんですけどね。ゆういちさんが、子供の頃は「赤とんぼ」を見ました？

**Yuichi:** 一応、小さい頃は結構見たと思いますね。僕も東京出身なんですけども。

**Natsuko:** なんか、そういうのがなくなってくるってさみしいですよ～。

**Yuichi:** そうですね。最近は本当に見ないですね。

あの、この、「赤とんぼ」なんですけども、この、ピッチアクセント、高さのアクセントなんですけども、今僕たちは「あ↑かと↓んぼ」って言いますよね。

**Natsuko:** 「あ↑かと↓んぼ」…そうですね。えっと、「あ」が低くて「かと」が高くて「んぼ」がまた、低いですね。

**Yuichi:** そうです。でも、歌だと、「あ↓かとんぼ」という風に、「あ」が高くなって発音されているんですよ。

**Natsuko:** メロディーを考えると、確かに、そうですね。

**Yuichi:** なので、今の「赤とんぼ」という発音とちがっているんですけども、これは、この歌が作られた当時に「あ↓かとんぼ」という風に発音していたからだそうなんです。

**Natsuko:** え？ホントですか？じゃ、当時と今では発音が違うんですか。

**Yuichi:** そんなんですよ。なんか、変ってしまったみたいなんです。この、三木露風の詩にメロディーをつけたのが、山田耕作という人なんですけども、そういう日本語のピッチアクセントまで気を配って曲を作る人だったそうです。だけど、時代とともに、「赤とんぼ」のアクセントが変わってしまったので、残念ですね・・・と。

**Natsuko:** そうですね。ちょっとなんか、皮肉な話ですね。

**Yuichi:** 日本語の歌詞の高低アクセント…ピッチアクセントこういうところまで気をつけて曲を作っているミュージシャンってのは今の日本にはほとんどいないらしいです。なので、そういう意味でも、山田耕作というのはすごい作曲者なんだ…と評価されているみたいなんです。

**Natsuko:** なるほど。

ということで、今回のオーディオブログは「秋」を連想させる「赤とんぼ」という歌でした。

**Yuichi:** リスナーの皆さんには「秋」をイメージする曲はありますか？あったら、是非コメント欄で教えてください。

**Natsuko:** それではまた次回。 **Yuichi:** さようなら。